

＜自主的努力項目記入書式＞

提携先	日本果実工業株式会社	記入日	2009/8/12
登録消費材名	みかんジュース、イチゴジャム、マーマレード、りんごジャム、みかん缶、甘夏缶、ゆず酢、さらさらマーマレード、牛乳でまぜまぜデザート、歌茶、夏みかんスカッシュ、レモンスカッシュ、ゆずハチミツ、黒豆茶、りんごのスカッシュ他		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

イチゴジャムに使用する加工苺、みかんジュースに使用するみかん果汁等、自然環境にかなりの比重で左右された。特に加工苺については、契約農家自体を増やすことが出来たが収穫量が減るなどの苦勞を伴った。みかん果汁は、裏年で不作であった為今年の約50%の搾汁量となり、年間供給を含めて非常に厳しかった。みかん果汁は、全国より原料を集めているがなかなか思った数量が確保できていない状況であった。今後は、生活クラブの生産者と結びつく事によって収穫量を増やしていきたい。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

クエン酸の原料である「とうもろこし」が生活クラブ基準のGM対策済みの承認をいただいた。今後もGM対策について継続していきたい。また、国産原料の確保については、全農グループである強みを生かしていきたい。加工苺、温州みかん共に生活クラブのネットワークをもっと生かして弊社での取引以外での収穫量を増やしていきたい。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

国産原料の確保については、全農グループである強みを生かしていきたい。原料確保に向けて企業として出来る事（もぎ手を企業が雇い農家の負担を少なくする事で生産意欲を上げる等）を進めていく事で農業の手助けをしていきたい。

＜自主的努力項目記入書式＞

提携先	日本果実工業株式会社	記入日	2009/8/12
登録消費材名	タンサン飲料		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

製造工場ではこの缶型のラインチャンスが少ない中、欠品なく供給できた。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

クエン酸の原料である「とうもろこし」が生活クラブ基準のGM対策済みの承認をいただいた。今後もGM対策について継続していきたい。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

今後も品質の良いものを製造していきます。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	日本果実工業株式会社	記入日	2009/8/12
登録消費材名	りんごジュース		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

昨年から今年始めにかけてりんごが豊作であり、予想をかなり超える収穫量となり、果汁の処理に苦慮する事となった。しかしながら生活クラブ、JAさがえ西村山との協議の中で農家を助ける運動という努力をした。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

シーズンパックとの兼ね合い、市場(生果)との販売価格により加工品に流れてくる状況が非常に読みにくい状況であり、なおかつ豊作の為さがえ西村山の農家を助けるという事が成果となり、この果汁を消化する為に新たに数種類の消費材を開発する事でなんとか乗り切った。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

今年もりんごは豊作の模様。加工品に回すことのみを考えるのではなく、生活クラブとJAさがえ西村山との協議によって加工品以外での消化が課題である。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	日本果実工業株式会社	記入日	2009/8/12
登録消費材名	白桃缶、さんまの蒲焼き缶		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

今年は、天候不順の影響により白桃の出来が悪い状況もあったが、なんとか作る事が出来た。しかしながら、自社農園に植えた白桃の収穫にはあと数年は時間がかかる模様。例年通り自然減の流れを食い止めるのが難しい状況。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

タピオカ由来のクエン酸を使用していたが、メーカーより供給不可との打診があった。今後は、とうもろこし由来でのクエン酸を使用する事となるが、生活クラブ基準のクエン酸を確保した為今後も問題なく製造できる。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

自社農園が来年以降より収穫量が上がってくる模様。また自社と契約農家との関係構築を引き続き継続していく。

〈自主的努力項目記入書式〉

提携先	日本果実工業株式会社	記入日	2009/8/10
登録消費材名	まぐろ油漬缶、まぐろスープ煮缶、さば水煮缶、マッシュルーム水煮缶		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

鮭原料については、昨年アメリカ経済の落ち込みにより世界的には逼迫感はなくなった。しかしながら日本船籍船漁獲のものは、いまだ高値安定を続けている。その原料の安定確保に全力をあげている。

さば原料は、年々漁獲時期が早まっており漁獲時期の変更をしていただいた。今年はまだ海外の買い付けが弱いアジアの景気回復に伴い魚価が上昇する可能性を秘めている。

マッシュルームは、不景気感で生マッシュルーム需要が落ちている。農家の安定仕入先として国内農家を支援していきたい。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

異物混入クレームゼロを目標に製造をおこなった。

まぐろ缶で金属クレームが発生したが、調査の結果、開缶したのちスプーン等で缶の切縁を削り取ったものであると判明した。

マッシュルームにおいては、目視検品を強化したが、栽培に使用している床土のブラックピートの混入により、毛髪と見間違えたクレームが発生してしまった。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

製造に由来する異物混入はゼロを目標とする。特に、毛髪、昆虫の混入は絶対に起こさない。

マッシュルームの選別工程において、現在実施している目視選別、目視検品だけでなく、機械による異物除去を検討していく。